

# ウイル・コム川崎氏へ荣誉賞

## 韓国カキ 生産者組合 海外拡大に貢献

韓国のカキ生産者でつくる牡蠣垂下水産業協同組合（慶尚南道・統営市、池弘太組合長）は17日、韓国産カキの海外市場拡大と生産者の所得増大に寄与した功労を認めて、カキを中心とした水産商社のウイル・コム（広島県福山市）の川崎耕平COOに業界荣誉賞を贈った。日本人としては初の受賞となる。川崎氏は約18年間にわ

たり韓国のカキ貿易に携わり、日本市場における韓国産の普及に貢献してきた。2023年からは同組合との取り組みで韓国産カキの成育良化を目指し、日本からの種苗導入提案と輸入協力を行った他、日韓、韓越の生産者間による養殖技術交流の機会を設けたり、日韓協力によるEU（欧州連合）市場や東南アジアなどの輸出拡大に尽力している。



池組合長（左）と川崎氏

17日の表彰は、同組合が主催するカキ販促の恒例イベント「閑麗水道カキ祭り」で執り行われた。メインステージの壇上で池組合長が川崎氏の功績

をたたえた。川崎氏は「大麥光栄であり韓国カキ養殖に関連する皆さまのおかげ。韓国は世界2位のカキ生産量で、世界でも唯一、米食品医薬品局（FDA）が生食用として認定した海域で育てており、衛生・品質面に優れている。カキという食材を通じ、今後も日韓交流の機会を重ねるなど、韓国カキ業界の発展に寄与し、受賞の恩に報いたい」と話す。

なお、「閑麗水道カキ祭り」は、韓国カキ生産量の9割を占める慶尚南道エリアのカキ消費拡大の催し。生カキ、キムチ、チゲ、チヂミなどのカキ料理を無償で提供した。来場者数は3万人ほどと伝えられ、開催地の統営市以外からも多くの観光客が訪れた。